

# 感染症情報

7月17日～23日(第29週) 神垣小児科

流行の程度および推移は、今週だけではなく過去2～3週間も含めて、院長の判断で決めたものです。  
あくまでも神垣小児科を受診された患者さんからの情報です。流行は地域によって異なります。

	疾患名	流行の程度	流行の推移	コメント
①	麻疹	★		
②	風疹	★		
③	水痘 (みずぼうそう)	★		
④	ムンプス (おたふくかぜ)	★		
⑤	百日咳	★		
⑥	溶連菌感染症	★★★★	↓	減少中です
⑦	肺炎 (マイコプラズマなど)	★		
⑧	ロタウイルス性胃腸炎	★		
⑨	その他の胃腸炎 (ノロウイルスなど)	★★	→	
⑩	伝染性紅斑(リンゴ病)	★		
⑪	手足口病	★		
⑫	ヘルパンギーナ	★★★★★	→	流行中です
⑬	咽頭結膜熱(プール熱)	★		
⑭	アデノウイルス感染症	★★	→	
⑮	上記(⑪⑫⑬⑭)以外の 夏かぜ症候群	★★★★	→	発熱や発疹を伴います
⑯	RSウイルス感染症	★★★★★	↓	やや減少中です
⑰	インフルエンザ	★★★★	↓	やや減少中です
⑱	新型コロナウイルス感染症	★★★★★	↑↑	増加傾向です
⑲	ヒトメタニューモウイルス感染症	★★★★★	↑↑	増加傾向です
⑳	その他のかぜ症候群	★★	→	

「RSウイルス感染症」は減少傾向ですが「ヒトメタニューモウイルス感染症」が7月中旬より増加傾向です。両者ともほぼ同じような症状です。RSは秋から冬、ヒトメタは春先から初夏にかけて多いのですが新型コロナの影響で季節が関係なくなっています。またRSの方が年少の子どもに多い傾向があります。夏かぜの1種である「ヘルパンギーナ」が6月中旬から流行中です。毎年流行する「手足口病」やその他の「夏かぜ症候群」は過去3年と同様に増加傾向がみられません。「インフルエンザA型」はかなり少なくなりましたが、もうしばらくは注意が必要です。「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)オミクロン株」はコンスタントにみられていましたが最近急激に増加傾向です。第9波の到来と思われます。今後8月～9月にピークを迎えると予想されます。様々な感染症が流行していますから引き続きWithコロナの対応をしていきましょう。

★	なし
★★	たまにあり
★★★	時々あり
★★★★	流行中
★★★★★	大流行中

↑	増加傾向にある
↑↑	著しく増加傾向にある
→	変化なし
↓	減少傾向にある
↓↓	著しく減少傾向にある